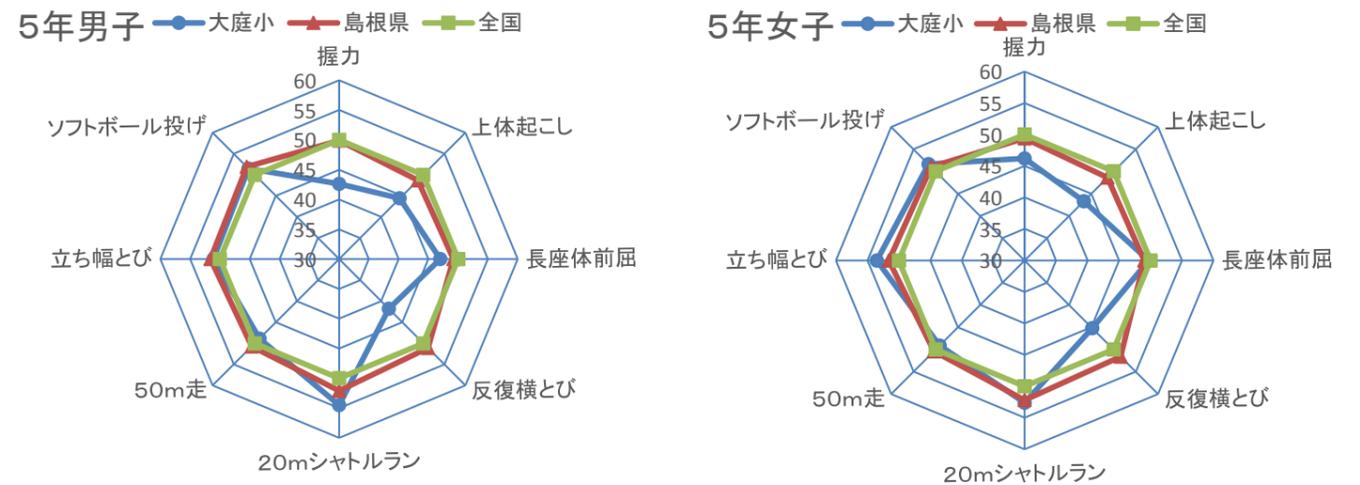


(1)児童の体力の現状

○意識調査において、めあてが示されているという項目が全国平均を上回っており、本校の学習スタイルが体育科でも定着しているといえる。
 ○5年生においては、「20mシャトルラン」が全国平均を上回っており、持久力が向上していると判断できる。
 ○上体起こしは、低・中学年において、全国平均を上回っており、動きを持続する力が向上している。
 ○上体起こしに関しては、昨年とも同様であり、本校の傾向ともいえる。
 ●「握力」「長座体前屈」「反復横跳び」「50m走」は、県平均を下回っており、本校の児童は全体的に体力が低い傾向にある。
 ●「握力」は、県平均を大きく下回っており、筋力に課題が見られる。
 ●昨年と同様に「反復横跳び」では、「タイミングを合わせる」、「自分の体を操作する」という運動感覚が養われていないことが課題の一つとしてあげられる。
 ●意識調査では、振り返りの時間が取れていないことが明らかになった。また、「先生の個別指導でできるようになった」の項目が、特に全国、県平均を下回った。体育授業の質の向上を目指すために、校内研修や教材教具等の環境整備の充実を図る必要がある。

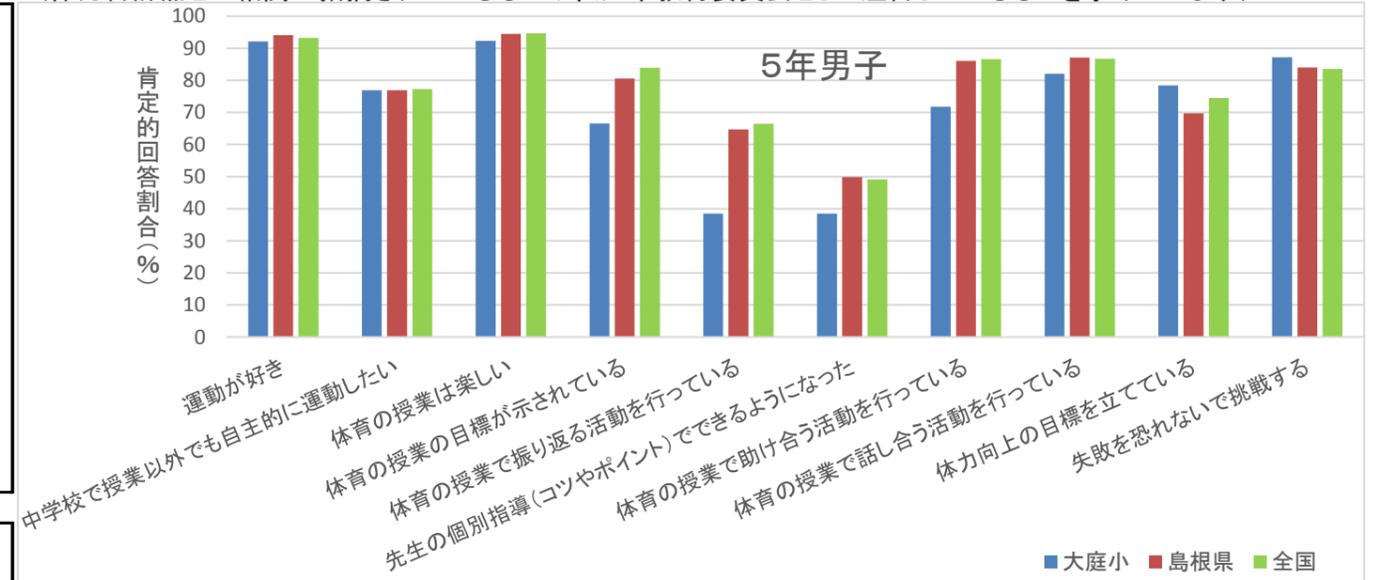
(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(2)令和元年度の具体目標の達成状況と課題

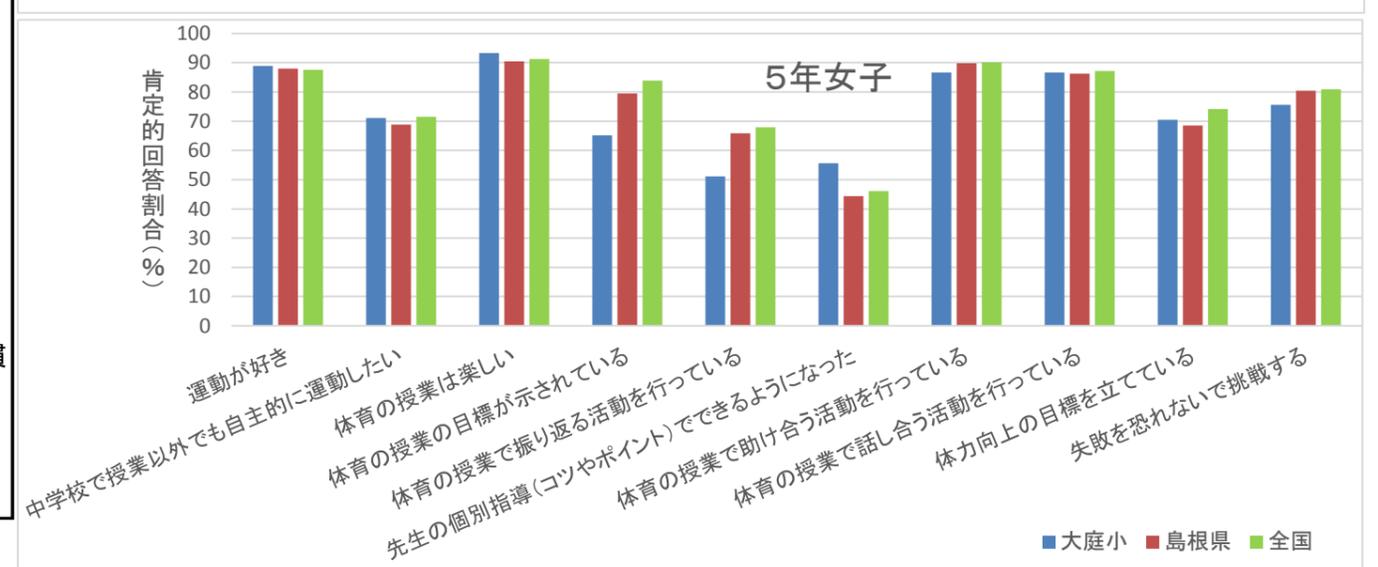
○持久力の向上を目指し、体育授業で体力アップメニュー(5種目歩走・5分間走・縄跳び)を年間を通して行った。5年生の結果を見る限り、持久力の向上が見られるため、今後も継続して行う。
 ○鉄棒は多くの教員が休み時間などをつかって指導を行った。
 ○長期休業中に縄跳びカードを配布し、家庭での運動の奨励に努めた。
 ○スポーツ委員会と連携をし、体を使って遊ぶ全校活動を各学期実施した。(全校鬼ごっこ 鉄棒発表会など)
 ○「姿勢体操」を全校で取り組み、体幹を鍛えている。
 ●地域や家庭との連携をあまりとることができず、課外における児童の運動意欲を高めることができなかった。家庭でできる運動を紹介したり、運動の楽しさや意義を伝えることができるような取組を推進していきたい。

(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果 (体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(3)令和2年度の取組【対策】

①学校における取組
 ・体育の授業において、導入時に体力アップにつながるメニュー(5種目歩走、5分間走、縄跳び)を行い、全校の共通理解のもとに、年間を通して継続的に実施する。また、姿勢体操などの体幹を鍛えるトレーニングや鉄棒指導に重点を置いて今後の指導を続けていきたい。
 ・委員会活動と連携を図り、全校での体力づくり活動を計画、実施する。
 ・体育の指導書の購入、指導法の研修を行い、教員に対する支援を行う。
 ②地域や家庭との連携による取組
 ・家庭でできる運動(トレーニングやストレッチ)を紹介し、「家族で取り組む〇〇週間」を計画して取り組む。特に長期休み等の機会を生かして定期的の実施することで、児童が運動に向かおうとする意識や意欲を高める。
 ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
 ・体づくりの視点から給食指導の様子を見直し、栄養バランスや残飯量などについて、適宜声かけや指導を行う。
 ・バランスのよい朝食摂取や早寝早起きなどの「規則正しい生活習慣の確立」を目指し、アウトメディア習慣や保健だより等と関連させ、保護者への啓発を図る。



調査実施者数(人) 1年(男子32・女子46) 2年(男子39・女子32) 3年(男子26・女子24)
 4年(男子38・女子29) 5年(男子34・女子42) 6年(男子27・女子35)